

研究結果報告書

中国国内の大学日本語専攻生向けのアカデミック・ライティング教材開発研究

所属： 中山大学
役職： 副教授
氏名： 楊秀娥

本研究の目的は、中国国内の大学日本語専攻課程の学生（以下、日本語専攻生）を対象とするアカデミック・ライティング（Academic Writing、以下AW）の教材を研究することである。つまり、日本語専攻生が日本語で論文やレポート、特に卒業論文を書くことをサポートするための教材がどうあるべきかを検証することを目指している。

そのために、以下の研究活動を行い、それに関する結果が得られた。

・日本語専攻生を対象に、AW教育についての認識、またはAW教育に不可欠なピア・レスポンスをはじめとする協同学習に対する認識を調査し、学会でその発見を発表した。アンケート調査の協力者は5大学にわたる604人で、インタビュー調査の協力者は2大学にわたる28人であった。それらの調査によって、日本語専攻生の協同学習に対する認識を明らかにし、協同学習の質を高める工夫を提示できた。

・これまでの日本語アカデミック・ライティング教材を分析し、学会でその発見を発表した。教材分析研究によって、日本語専攻生向けのアカデミック・ライティング教材を開発する必要性を検証し、教材開発の方針を定め、AW教材開発のシラバス、ユニット例を提示できた。

・日本語教育の専門家2名に、学習者調査、AW教材分析の結果、AW教材開発のシラバス、ユニット例について評価してもらった。専門家の評価によって、AW教材使用、教材編纂と教材改善についての指摘、アドバイスを受け、AW教材研究を方向づけられた。

本研究では、日本語専攻生が日本語で論文やレポート、特に卒業論文を書くことをサポートするための教材がどうあるべきかを検証した。今後、本研究を続け、海外の日本語学習者が利用しやすい教材を開発していきたいと思う。また、日本語のアカデミック・ライティング教育研究にとどまらず、本研究を行う際に触発された以下の3点の研究意識をさらに発展して、新たな研究として展開させたい。

・日本語教育におけるアカデミック・リテラシー教育

- ・日本の高大接続に関する研究
- ・日本語教育の発展から見られる中国の「対外漢語教育」への示唆

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 「日本語アカデミック・ライティング教材開発の試み」, 楊秀娥, 第三回「日本語教育学の理論と実践をつなぐ」 国際シンポジウム, 2018年3月17日, 高等教育出版社(北京).
2. 「日本の初年次教育に見られる中国の日本語専攻教育への示唆」, 楊秀娥, 第12回国際日本語教育及び日本研究シンポジウム, 2018年12月9日, 香港理工大学(香港).
3. 「協同学習に対する日本語専攻生の認識」, 楊秀娥, 第四回「日本語教育学の理論と実践をつなぐ」 国際シンポジウム, 2019年3月16日, 高等教育出版社(北京).

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)